

議事要旨（速報版）

1 / 3

件 名：	新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会 第4回 対策協議会
日 時：	平成16年1月23日（金）14:00～16:15
場 所：	可児市総合会館
出席者：	出席者32名 欠席 1名（後藤委員） 植下委員長、杉崎委員、堀内委員、大沼委員、今村委員、平山委員、佐々（正）委員、鈴木委員、霞委員、竹谷（忠）委員、佐々（俊）委員、細田（收）委員、奥村委員、加藤（光）委員、梅田委員、各務委員、竹谷（雅）委員、山口（綱）委員、足立委員、田口委員、佐橋委員、加藤（勝）委員、吉田委員、山口（正）委員、山田委員、小木曾委員、事務局…中村（茂）、片桐、森田、青山、中村（徹）、三木
配布資料：	・ 第4回対策協議会議事次第 ・ 資料4-1 ・ 巻末資料4-1 ・ 巻末資料4-2 ・ 地元からの配付資料（久々利地区の要望事項について、第1回対策協議会議事録抜粋、土壌の検査結果）
議事内容：	1. 開会 2. 挨拶 新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会 委員長 植下協 3. 議事 1) 残土処理場の地盤調査結果、対策工法の検討について ○事務局：資料4-1「1. 残土処理場の地盤調査結果、2. 対策工の検討」に基づき説明 ○梅田委員：暗渠（コルゲート）の設置されている平面位置、断面位置、高さ、旧盛土との高さ関係を知りたい、降雨時の水が暗渠だけでなく地山にも漏れ出さないか。 ○事務局：暗渠の位置を図1-1-2、図1-1-3で説明。ボーリングB22をそのための確認孔としている。 水質については、現在も可児市と国交省とで1週間交代で測っている。 ○小木曾委員：新滝ヶ洞溜池への流入水の水質をいかに担保するかについて地元の皆さんと合意したい。 ○吉田委員：不安はゼロにしてもらえないと妥協できない。第3回対策協議会資料でも悪い部分の位置が示してある。今回は新たに硫黄の位置が示してあり悪いところが次々と出てくる。幸いにもそれらは残土処理場の上部に集中しているので掘削除去していただきたい。 ○事務局：硫黄は黄鉄鉱のなかに含まれているもので、新たに見つかった物質ではない。除去は掘削時に再酸化を促すので事務局としては採用できないと考える。 ○杉崎委員：水、空気と触れさせないためには、被覆をして今までの地下にある状態に戻してやればこのような問題は起こらないと考える。 ○細田（收）委員：久々利地区の要望事項について説明 ○大沼委員：梅田委員の質問に関して。コルゲートに全ての地下水が集まるのでなくて、その下方の地盤内へも地下水は浸透するのでは。 ○平山委員：美濃帯の泥岩は不透水層。コルゲートの出口はこの層と接触していろいろな水がどんぶりの底のように集まると思われる。

- 大沼委員：ボーリングコアに対する溶出試験の分析項目のなかにpHが入っていない。
硫黄断面（図 1-1-3）とpH断面（第3回対策協議会資料）の結果が整合していない。
硫黄の溶出試験と含有量試験の結果が整合していない。
これでは対策まで話がいけない。
- 今村委員：溶出試験と含有量試験の結果が相関するのは難しい。微細なメカニズムの解明にあまり時間をかけないほうがいい。
この場所で硫酸が出ない措置をとり、モニタリングを行うことが実務的。
- 大沼委員：土壤汚染対策法の項目だけを対象にしているので肝心のデータが得られていない。
また、被覆によって浸出量は現況の350L／分が180L／分になると言うが、完璧な遮水になっていない。タンクモデルの検証も必要。
- 田口委員：対策のための掘削時に異常水が出た場合に現在の処理プラントで対応できるのか。
また、暗渠の寿命はどれくらいか。暗渠が詰まらないか。
- 事務局：次回報告する。
- 吉田委員：地権者に返す際には悪い中味をきれいにし返すべきではないか。
- 杉崎委員：中味が悪いのではなく状態が悪いのだから、状態を改善すれば問題ない。
- 竹谷(雅)委員：5万も10万も取り除かなくてよい。濃度の高い重要な部分だけでよいのでは。
- 委員長：雨水が入らないように、できるだけ覆土して問題が無くなればよい。地域の相談で、掘り出してどこかへ持っていきたいという事は、次の段階として考えるというのこちらの先生方が思っている事と考える。対策工に関しては第5回の協議会で皆さんの納得のいくように事務局で十分な作業をして説明頂きたい。

2) 調整池の底質土調査結果について、各種調査結果について

- 事務局：資料4-1「3、調整池の底質土調査結果について、4、各種調査結果報告」に基づき説明。
- 細田(収)委員：久々利地区の要望事項に対しては次回対策協議会で回答して欲しい。
現状は、安全である。しかしこのまま何もしなくなると大変。よって我々も対策に進んでいる。
- 吉田委員：これまでの協議会の議事録には今回の問題の事例が各委員から報告されている。
国交省が気づかなかった理由は何故か。次回の協議会で資料を提出してほしい。
- 委員長：当時、環境庁はこういう事に対して指導をしていなかった。
- 大沼委員：旧建設省も要綱による調査をしていたはずなのでそれを見ていただければよい。
分析のやり方が土壤汚染対策法にとられすぎる。カドミについても0.01mg/kgまで測っておくべき。
また鉄の量が1桁少ない。
- 事務局：カドミウムについては自然由来かどうかの判断がつけばよいと考えた。
鉄は、この周辺ではもともと流出しているので考察は特にない。
- 大沼委員：今回の事例のようなケースでは、残土や底質土に含まれる重金属が自然由来かどうかということが問題なのではない。まして、分析結果の表に参考として示されている自然的レベルの含有量上限値と比較して、それより低いから問題ないというような説明のしかたは適切ではない。
- 今村委員：分布等いろんなことを調べて判断する。
- 吉田委員：調整池のヘドロ調査や魚の調査で地元民の立会いを求められたが、素人が見てもよくわからない。学識者の方に実際に見ていただいて、この場で検討していただきたい。
- 田口委員：新滝ヶ洞溜池の水の色は昨年4月の段階よりも青味は薄れたがまだ青い。何故か。
- 事務局：見た目ではなくて数値で管理してゆきたい。
- 委員長：今後の予定の説明を。
- 小木曾委員：久々利地区の要望事項に対し前向きに対応する。
また補償についても、可能な限り努力する。地権者には契約の延伸をお願いしている。

- 山口(綱)委員：残土処理場の悪いところは深くないので、できるだけ取り除く対策を、捨て場の確保も含めて計画し説明してほしい。
その結果できないなら被覆工。その場合には新滝ヶ洞溜池に完璧に異常水が入らない計画設計をした上、その説明をしていただきたい。
- 事務局：皆さんが納得できる資料で説明させていただく。
- 吉田委員：大平トンネルの現地視察の際に、掘削土砂をダンプで搬送していた。まだ、未掘削の部分に黄鉄鉱が残っているのでは。また、その搬出先はどこか。残土処理場の土砂もそこにもって行けばよいのでは。
- 小木曾委員：トンネルから発生した残土は黄鉄鉱の溶出はなかった。可児・御嵩 IC の盛土等に転用した。
- 委員長：今回、環境影響評価で事前に予測できないでこのような問題が起こった。今後は、このようなことを考慮した事業が行われることを期待する。
第5回の協議会をできるだけ早く、資料がまとまり次第行いますので宜しくお願い致します。